

教育理念：キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材の養成

教育目的：キリスト教精神に基づいて人格を陶冶し、豊かな教養を体得させ、深い専門学術を研究、教授することにより、世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材を養成し、国際社会、世界文化の発展に寄与することを目的とする。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

工学部 工学科	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、以下に挙げる知識・技能・意欲・態度を備えた人を求める。そのために、多様な評価方法を用いて複数の選抜機会を設定する。 1. 本学の教育理念を理解し、他の国を含む地域の発展に寄与する意欲を持つ人 2. 他者とのコミュニケーションを行ううえで必要となる、高校段階までの思考力・判断力・表現力を備え、相互の特徴を重視しながら、課題解決に取り組む意欲を持つ人 3. 工学を中心に、データサイエンス、人文・社会科学を主体的に学ぶ意欲を持ち、そのために必要な基礎学力を身につけている人 4. 文理の枠を超えた複合的な視点で実社会の問題を発見し解決策を考えることに意欲を持つ人
------------	---

※ 工学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは以下を参照してください。

【ディプロマ・ポリシー】

本学の教育理念にもとづき、世界の市民としての素養を獲得し、以下に掲げる能力を身に付けたことを認定された学生に学士(工学)の学位を授与する。

1. 社会の課題解決をするための最も重要な素養としての工学の知識・技能。加えて、工学に利活用するための①～③の知識・技能。
 - ① データサイエンスの基礎的な知識・技能
 - ② 人文・社会科学の知識と語学力
 - ③ 工学における倫理的・法的・社会的な課題の基礎知識
2. 工学の専門知識にデータサイエンスの基礎的な知識・技能を利活用して、地域の課題解決に適用できる能力
3. 事業・プロジェクトにおけるマネージャーとして必要な基礎知識・リーダーシップ・コミュニケーションに関する能力
4. 工学の専門知識・技能に加え、工学に利活用するためのデータサイエンスの基礎的な知識・技能と人文・社会科学的視点を持ち、他者と協働し新たな価値を創出できる能力(総合知)

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに定める能力を身に付け、世界の市民としての素養を獲得するため、以下の方針で教育課程を編成する。学修成果の評価にあたっては、明確な成績評価基準を策定した上で、個々の科目のシラバスに明示する。

1. 工学の知識・技能を身に付けるため、工学の基礎科目および専門科目を配置するとともに、ディプロマ・ポリシー 1. に定める、工学に利活用するための知識・技能を身に付けるため、①～③の科目を配置する。
 - ① 工学に利活用するためのデータサイエンス科目群
 - ② 人文・社会科学系統の教養科目と語学系科目
 - ③ 工学における倫理的・法的・社会的な課題に関する教育科目
2. データサイエンスの基礎的な知識・技能を工学の専門知識に利活用し、地域の自治体や企業・団体の課題解決を実行する能力を身に付けるため、工学PBL演習Ⅰ・Ⅱを配置する。
3. 地域の自治体や企業・団体との共同作業を通して、リーダーシップやコミュニケーション能力を修得するため、工学キャリアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、工学PBL実践演習Ⅰ・Ⅱ、および企業インターンシップⅠ・Ⅱを配置するとともに、マネジメント力を修得するためのビジネス系科目を配置する。
4. 地域で学んだ知識・技能を他の国や地域でも運用して新たな価値を創出する能力を養う科目として卒業研究を配置する。